

NPO法人 IOJ スピーチ

「雑学 日本文明物語」

< 宮先生からの宿題と回答 >

Q1 = 何が見えてくるか → 世界文明日本習合 = 和の精神創出

Q2 = どうすれば良いか → 和の世界認識普及 = 複素(数)認識

田 中 文 夫

日本山岳文化学会 正会員 ・ 総合人間学会 正会員
建築設備士(電気)

2018年 7月 19日 (木)

雑学
日本文明物語

相模國 第四之宮から



田中文夫

国立国会図書館 詳細情報

日本文明物語：相模國第四之宮から：雑学
田中文夫 著

詳細情報

書誌作成中

タイトル：日本文明物語：相模國第四之宮から：雑学

著者：[田中文夫](#) 著

著者標目：[田中, 文夫, 1946-](#)

出版地(国名コード)：JP

出版地：[出版地不明]

出版社：[田中文夫]

出版年月日等：[2018]

大きさ、容量等：231p；21cm

注記：年表あり

注記：文献あり

注記：著作目録あり

価格：非売品

出版年(W3CDTF)：2018

対象利用者：一般

資料の種類別：図書

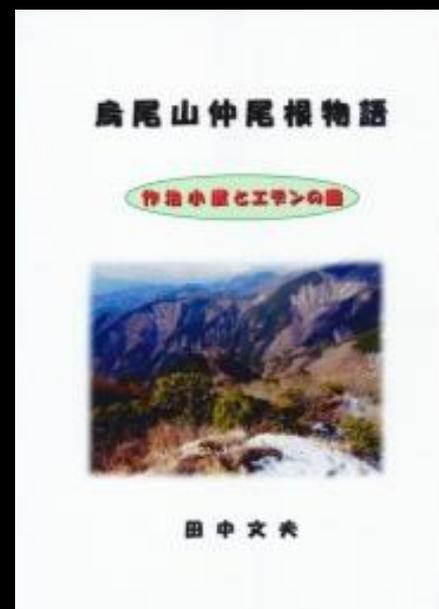
言語(ISO639-2形式)：jpn：日本語

構 想 の 動 機

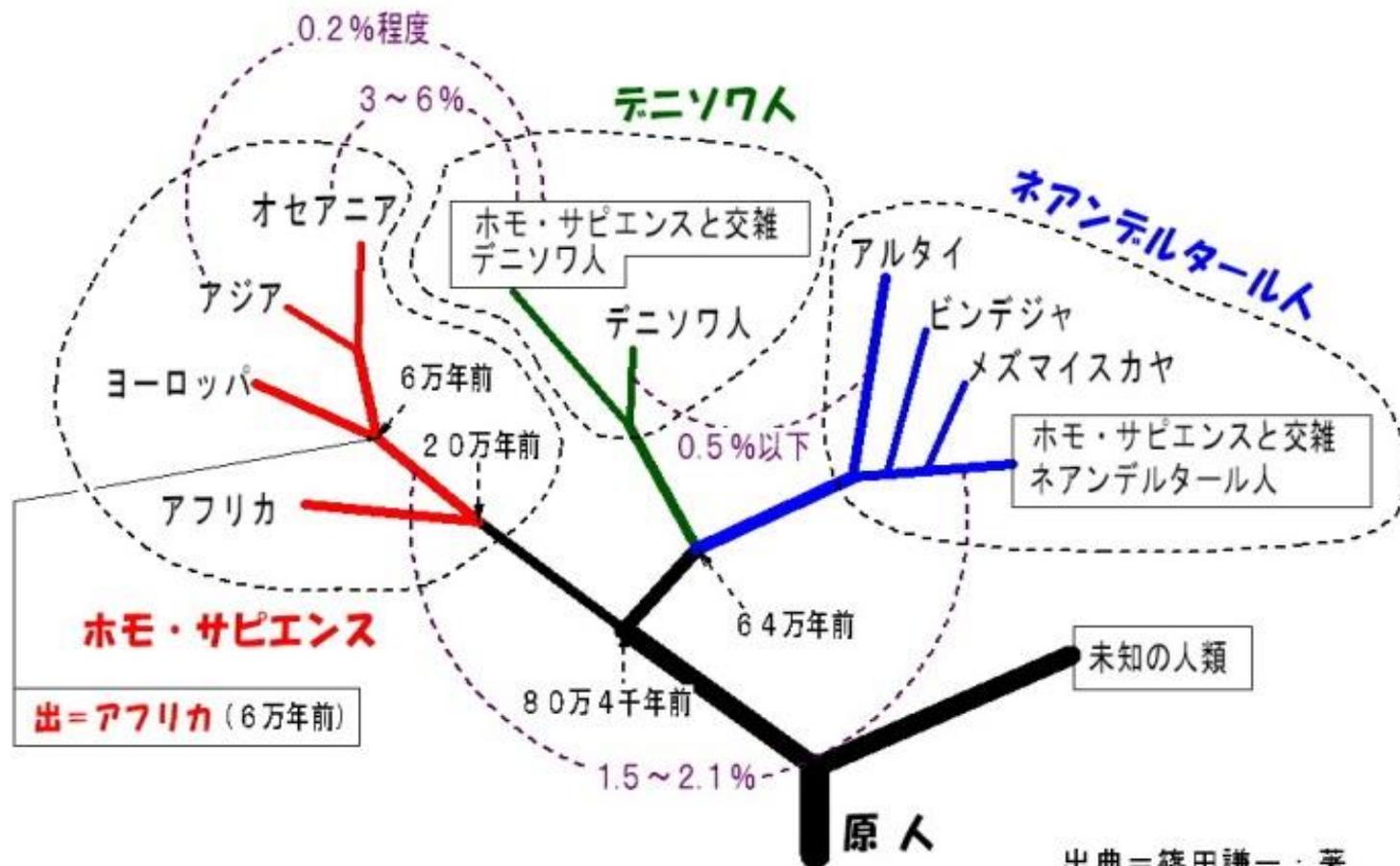
1. 東京大学名誉教授＝中村純二先生の論文『三輪山と国の始まり』(日本山岳文化学会、2017年)で、「天皇系図」をCAD作成。
各々の天皇につき、確認作業で内容に踏み込み興味を持つ。
 - ・ 奥様(あや)は、金森徳次郎＝憲法担当国務大臣の次女。
2. 自分探しの旅
 - ・ 生誕地「相模國 第四之宮」神社の祭神＝ウジノワキイラツコ(15代応神天皇の第6皇子)と、神社の15菊花紋章(天皇家は16菊花紋)への疑問から、天皇への関心が広がる。(古代イスラエル)
 - ・ 集団に馴染まない性格は、何に由来するのかの疑問。
 - ・ 幼少期から、いつも天から見透かされている感覚があり、完全(総合、統合)でないと不安にかられた。(救われたのが登山体験)
 - ・ 完全なイメージは、球体にありそうな感覚→高校の卒業文集に書く
3. 鈴木弥栄男氏との出会い → 上記、中村先生の講演会
 - ・ トインビー『図解 歴史の研究』対訳書の「文明整理」を参照。

中村純二先生(95歳)とあや様(90歳)

2018年7月11日



ホモ・サピエンス誕生 (約20万年前~アフリカ)



ホモ・サピエンスと他原人との交雑系統

出典=篠田謙一: 著
『DNAで語る 日本人起源論』
作図=田中文夫

【 現生人類 = ホモ・サピエンスの世界展開 】

1. ホモ・サピエンス（現生人類の祖）

- ・ 約20万年前にアフリカに誕生
- ・ 約6万年前にアフリカを出立～アラビア半島～中東へ
- ・ 途上でネアンデルタール人、デニソア人と交雑

（次頁参照 → 身体的な強さを補強）

- ・ **道具の発明** → ① 縫い針（毛皮）～シベリア踏破
② 丸木舟（渡航）～海洋渡航

2. 西側（ヨーロッパ）への展開 → コーカソイド

3. 東側（アジア）への展開 → モンゴロイド

4. 東南側（オーストラリア）への展開 → オーストラロイド

5. 日本列島へ習合 → 縄文人となる（Y染色体D系統）

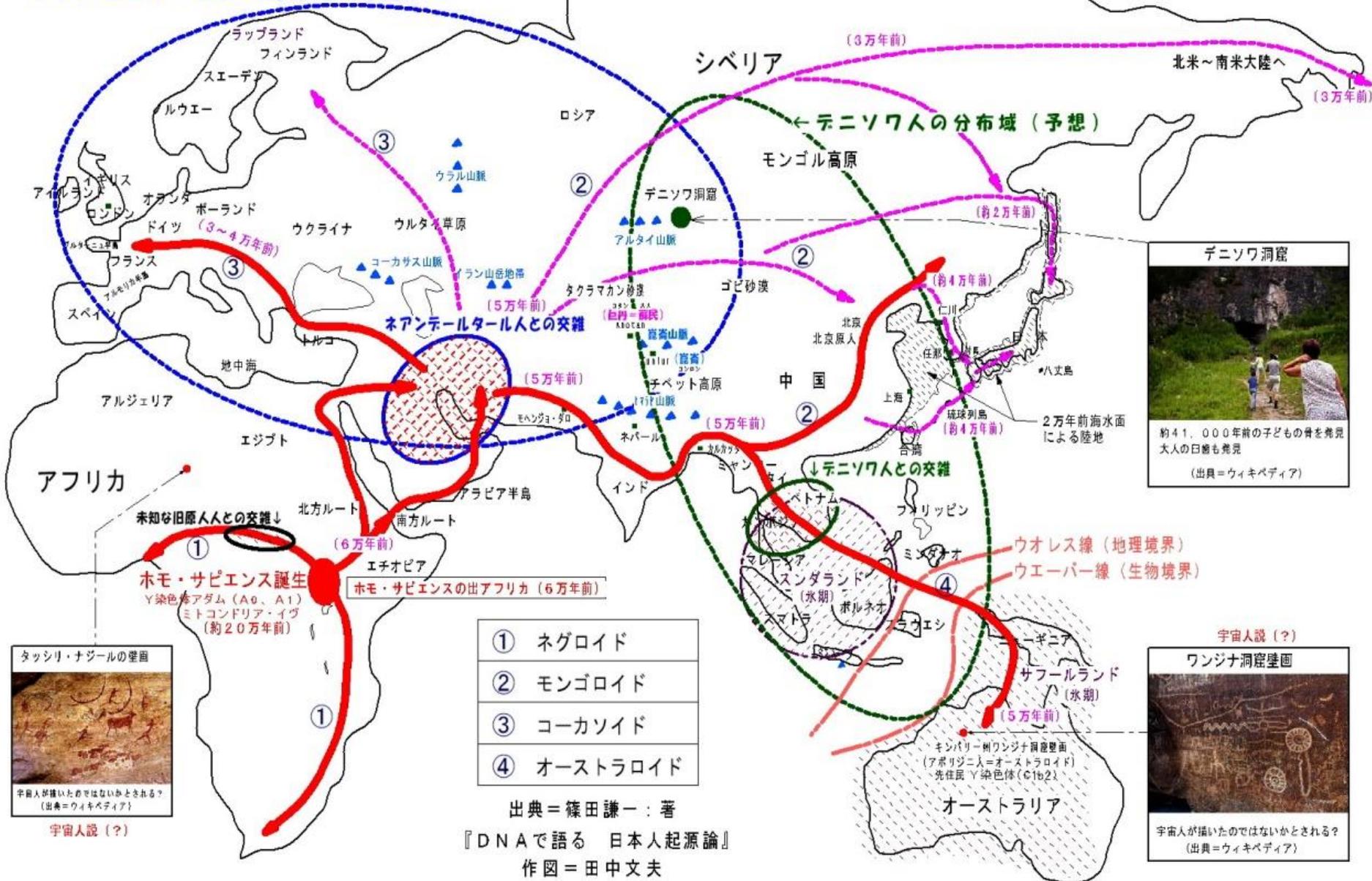
① 約4～2.5万年前 → 台湾～琉球列島～九州

② " → 朝鮮半島～九州

③ 約2万年前 → シベリア～サハリン～北海道（毛族）

ホモ・サピエンスと他原人との交雑

ネアンデルタール人の分布域 (予想) ↓



- | | |
|---|----------|
| ① | ネグロイド |
| ② | モンゴロイド |
| ③ | コーカソイド |
| ④ | オーストラロイド |

出典=篠田謙一: 著
『DNAで語る 日本人起源論』
作図=田中文夫

【古代文明の世界展開】

1. **古代文明は**、ウバイド→シュメール→メソポタミアの地でBC5,500～BC3,000頃発祥し、BC3,000頃からウラル山脈～コーカサス山脈はさんで、東 / 西 へ拡散
2. **西側（ヨーロッパ）への展開は** → **コーカソイド**
アーリア系が主体 → **自然分析**（一神教、無神）
特徴
 - ・ 屈折語（文法構造＝インド・ヨーロッパ語族）
 - ・ 二元論（**2進法**＝分析・科学）
 - ・ **戦争**、略奪、交易、騎馬～移動
 - ・ 海洋、農耕、牧畜 ～ **城塞都市**
3. **東側への展開は**（アジア） → **モンゴロイド**
スメル系が主体 → **自然崇拜**（多神教、崇拜）
特徴
 - ・ 膠着語（接頭語、接尾語で構造＝日本・朝鮮・モンゴル等）
 - ・ 孤立語（一語一形態＝シナ・チベット等）
 - ・ 多元論（**60進法**）、多神教、自然・人物崇拜
 - ・ 農耕（川沿平野）、漁労（海辺）、**村落定住**、交易

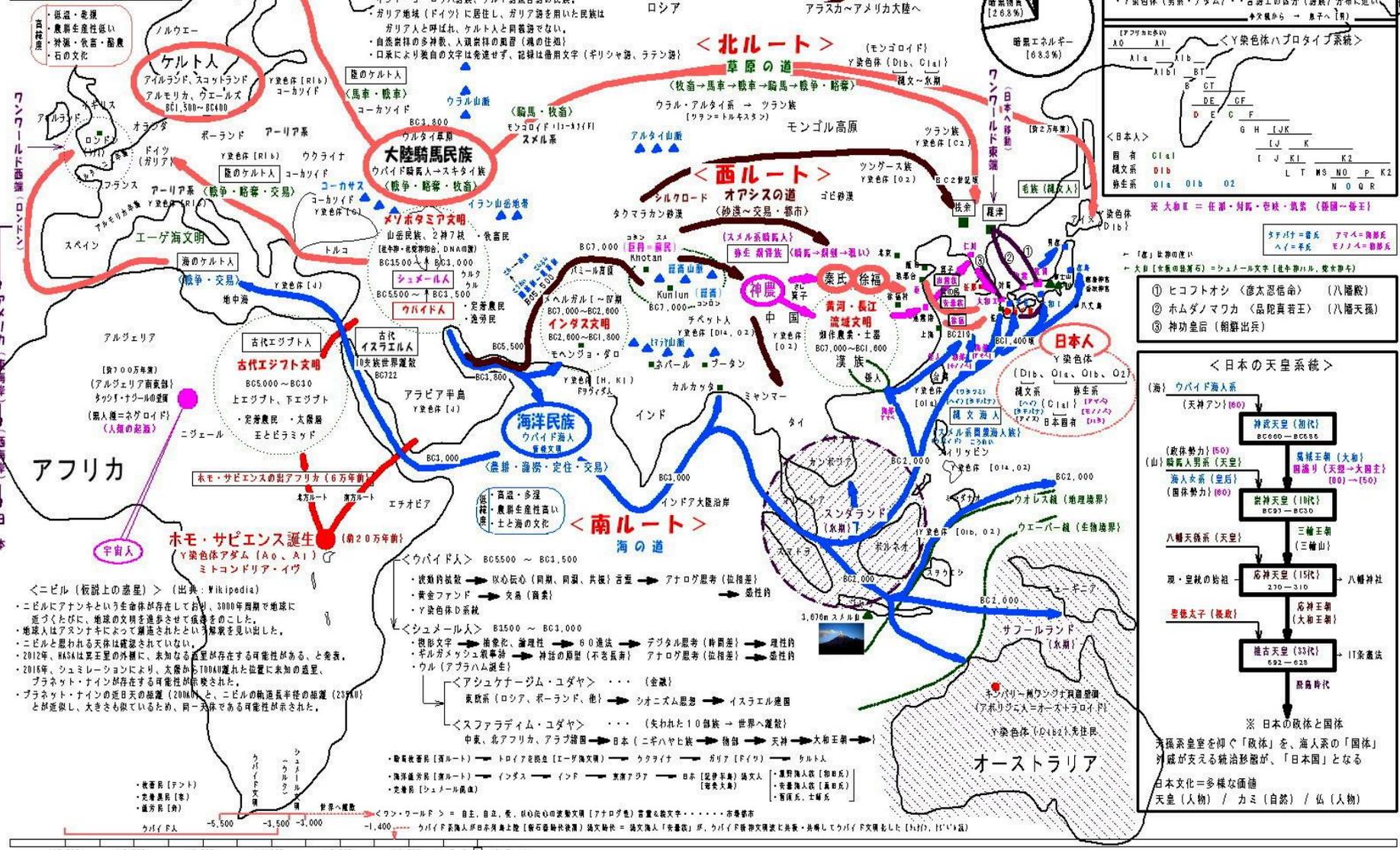
【 東アジアから → 日本列島で習合 】

1. **北ルート**（シベリア～モンゴル～日本列島）約2万年前
スメル系＝移住～狩猟、採取
・ウラル・アルタイ系ツラン族
2. **西ルート**（シルクロード～満州～朝鮮～日本列島）
スメル系＝移住～狩猟、牧畜、騎馬、馬車、戦争・略奪
（崑崙山脈～中国（神農）～日本）
スメル系＝定住～農耕、土器、
・特徴＝膠着語（接頭語、接尾語で文法構造＝日本・朝鮮・モンゴル等）
孤立語（一語一形態＝シナ・チベット等）
＝多元論（60進法）、多神教、自然・人物崇拜
＝農耕、漁労、村落定住、交易
3. **南ルート**（東南アジア沿岸～沖縄～日本列島）BC2,000頃
スメル系閩蔑海人族＝定住～漁労、採取、
4. **習合の結果** → 天皇家を国体とした「和合国家」に収斂

古代=文明・文化の世界展開 (ワン・ワールド)

(普遍性) (多様性)

- <世界の4大人種>
 - ・ネグロイド = 黒人種 (アフリカ)
 - ・モンゴロイド = 黄色人種 (A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z)
 - ・ユーロペオイド = 白人種 (地中海、北方)
 - ・オーストラロイド = (原始人種)
- <世界の4大文明>
 - ・キリスト教文明 = 25 億人・聖書
 - ・イスラム教文明 = 15 億人・コーラン
 - ・ヒンドウ教文明 = 10 億人・バガヴァト・ギータ
 - ・儒教文明 = 13 億人・五経
- <世界4大宗教>
 - ・キリスト教 (一神教)
 - ・イスラム教 (一神教)
 - ・ヒンドウ教 (多神教)
 - ・仏教 (兼神・人間→仏)



<人間生活様式の主たる特徴>

文明 = 広域生活技術・均差→普遍性 (都市、産業、科学、法典)

文化 = 特定領域の生活様式→多様性 (宗教、思想、価値観)

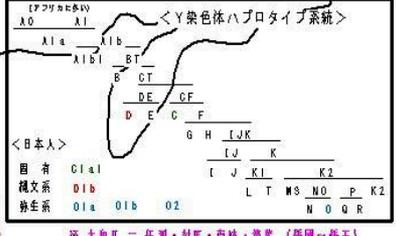
・物質 (原子の設計) は半自全エネルギーのたった4.9% (月の月グラフ = 量子物理学による解釈)

DNA (ハプログループ) (haplogroup)

単一の編成多型 (SNP) 変異を持つ共通祖先集団

・ミトコンドリア (女性) ... 人種との相関が高いが、混血多様性 (ミトコンドリア・グループ)

・Y染色体 (男性・アダム) ... 言語上の区分 (遊牧) 分布に定規



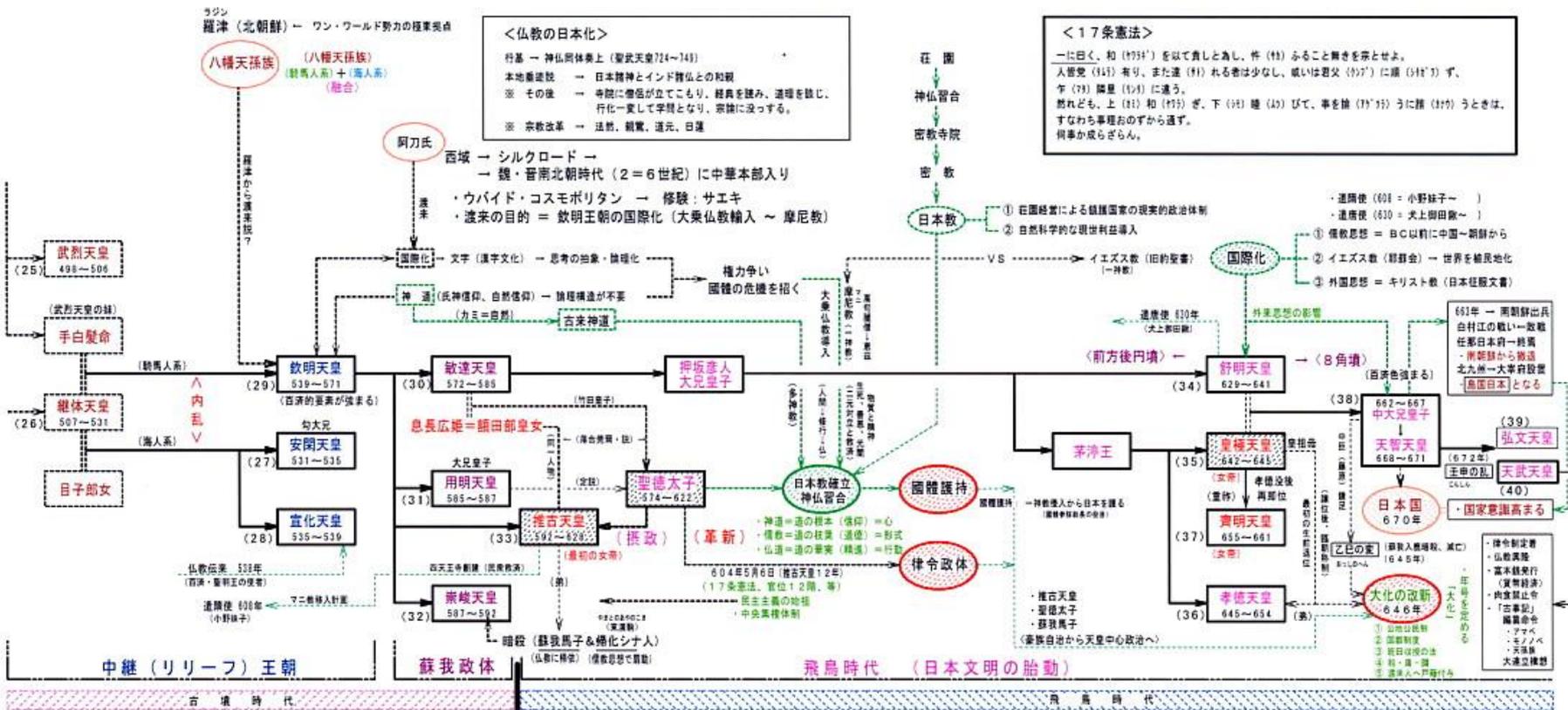
※ 大和系 = 任部・別部・屯枝・筑紫 (藤原一徳王)

タタリ系 = 倭系 / アマノオノコ系 / アイヌ系 / モノリス系 = 弥生系

- ① ヒコフオクシ (彦太忍宿命) (八幡殿)
- ② ホムダマノカミ (品陀真若王) (八幡天孫)
- ③ 神功皇后 (額蘇穴兵)



天皇の系図-3 (継体天皇~天智天皇)



X	・「古事記」 ---- 天武天皇の命令 → 完成=712年、編纂=神田阿礼一太臣安万侶(村/住: 1112) → 文久8代の主流「多氏(村/住)」の末裔
	・「日本書紀」 ---- 完成=720年、編纂=吉士親王 (藤原氏による天皇系統の確立 → 藤原鎌足=飛鳥出身の海人族)
M	・丹後半島 ---- 海部(アマベ)が丹後半島に上陸 → 近畿内陸部へと至りイセ(伊勢)を広める(オリエント多神教)
	・丹後国独立 ---- 独立=713年 → 丹後アヤタチの日本潜入作戦が一段落 アマベのカバネ買取と祖先統合 → 「海部直」になる → 丹後海部直(アヤタチ)
モ	・ユダヤ浸透 ---- 海部 → 海部直(丹後アヤタチ) 物部 → 河内国(モノノベ、アユタチ) → 神武天皇の宮廷ユダヤ人 → 文久8代に仕える(鎮兵統率、モノノベ神道、波動治療) 宇佐 → 婚姻ユダヤ(在住日本人) → 宇佐八種
	・蘇我氏 ---- 第1世 竹内宿禰 → 蘇我石川宿禰 → 蘇我高麗 → 蘇我韓子 → 蘇我高麗 → 蘇我稻目 → 聖德太子 → 欽明天皇(天智) 蘇我氏が滅び、藤原氏が来る → 蘇我入鹿 → 蘇我蝦夷 → 蘇我馬子 → 額田部皇女 → 敏達天皇(天智) [中臣鎌足=藤原鎌足=藤原氏の始祖] 中大兄皇子と中臣鎌足に討たれる → 蘇我氏自滅 中大兄皇子と中臣鎌足に討たれる → 中大兄皇子(天智) → 天智天皇(天智) 中大兄皇子と中臣鎌足に討たれる → 中大兄皇子(天智) → 天智天皇(天智) 中大兄皇子と中臣鎌足に討たれる → 中大兄皇子(天智) → 天智天皇(天智)
八=8 : ユダヤの聖数(強さ、実力者、無限大)	

宗 教	・神を信仰	一神教 → ユダヤ教、キリスト教、イスラム教 ・神(主権者)が人間を創造 = 神 → 人間 → 奴隷
	・多神教	ヒンドウ教、古代(メソポタミア、エジプト、ギリシャ、他) ・ヒンドウ教(カースト制) = 「輪廻」思想によりカーストの再生産
修 行	・自然崇拝	神道 → 日本(八百万の神=主権者)「カミ(天神)」は「神」の上位概念 ・自然の全てが「神」になれる → 人間も自然に含まれる
	・人物崇拝	儒教 → 天=聖人=皇帝/君子=官僚(士)/族(農工商)=家族、親族、一族 ・「天」に代わって「皇帝(主権者)」が4民(士農工商)を統治 神道 → 日本 → 天皇 = 天神(カミ)にして皇帝(神)たる君主(主権者)
修 行	・オカルト	道教 → 人間、鬼、閻魔王、冥界 → 占隲、仏壇
	・心身修行	仏教 → 人間が精進・修行によって悟りに達し(涅槃) → 仏となる 301~600 ・伝導布教(行化)から学問化(桓武天皇時代) → 修験道 → 自然修行
修 行	・自然修行	登山 → 人間が自然体験を通して自然認識・自己認識を高め、受容力を高める

【 習合(和合) → 日本文明の特異点 】

1. 聖徳太子 → 17条憲法 (604年)

- ◆ 和 (ヤワラギ) を以って貴しと為し、
忤 (サカ) ふること無きを宗とせよ。

2. 日本国憲法 (1946年11月3日公布)

- ◆ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、天皇制
- ◆ 戦争放棄 → 世界唯一 (世界遺産価値)

3. 日本文明から世界への提言

- ◆ 複素 (数) 的認識による、世界 (和合) 認識の普及
 - 複素 (数) 的認識 → $\sum [\text{実相世界} + (i) \text{虚相世界}]$
 $t = -\infty \sim +\infty$
 - 実相世界 → 文明・文化の可視的活動世界
 - 虚相世界 → 不可視的 → 心の抽象世界

世界の歴史-2 (BC490年~AD400年)

社会体制	アメリカ	西・欧・ロシア	エジプト・(北アフリカ)	中・高・西アジア	中・高・(朝鮮)	日本
		400 サラスの海戦 (アロス海戦)			479 孔子没す(享年74歳)	475 孝昭天皇(35)
		400 ギリシャ文化全盛期 ・アテネの黄金時代(BC480~430) ・3権力分立思想(アリストテレス)			450 『論語』の体系化	
		440 ヘロドトス『歴史』全9巻著作	404 ペルシャから独立	430 『仏教』の体系化	403 春秋時代の終焉(=BC770) 403 戦国時代開始 齊、趙、魏、楚	
		431 ペロポネソス戦争				392 孝安天皇(36)
		347 プラトン死去 ⇒ 『国家』	341 ペルシャによるエジプト再支配			
		338 カイロネアの戦い				
		マケドニア王⇒アレクサンドロス ペルシャ征服⇒インドまで ヘレニズム文化広がる	332 マケドニアが征服 アレクサンドロス帝国の東方	291 アレクサンドロスの大王パピロンの城 290 ペルシャ帝国滅亡	334 韓が趙を滅ぼす	
	マヤ文明	334 マケドニア王⇒アレクサンドロス ペルシャ征服⇒インドまで ヘレニズム文化広がる 古代エジプトとギリシャの融合 784BC, 317BC, 490	305 プトレマイオス王朝、成立 (古代エジプト最後の王朝)			<弥生時代の始まり> 290 孝靈天皇(7)
		272 ローマの半島統一 第1次ポエニ戦争(=241年) 第2次ポエニ戦争(=201年) カルタゴ降参⇒ハンニバル			221 秦(始皇帝)、中国統一 219 始皇帝⇒不老長生薬の命(徐福) 214 万里の長城 206 漢、滅亡 ⇒ 楚・漢戦争始まる 202 前漢、漢王朝成立	219 倭国、倭国地方に上陸(倉立神社) ・倭国 ⇒ 北島約5000人と弥生(住吉町) ・男鹿、富士宮前、熊沢(神奈川)
	オオチャイカン文明(メキシコ) 太陽のピラミッド 鳥のピラミッド 神聖の陶器社会	168 マケドニア滅亡 ・ギリシャがローマの属国となる			195 衛、滅亡 141 武帝 ⇒ 中国主権へ展開 108 漢 ⇒ 朝鮮半島に4郡を設け	214 孝元天皇(8)
		149 第3次ポエニ戦争(146年)				158 南北朝天皇(9)
		146 カルタゴ滅亡 ⇒ ローマに併合				・大穴3代・海人高の最後(60)
		73 スパルタクスの乱	51 クレオパトラ王没(終身独裁)		97 新羅高(史記)を著す	・国譲り(古事記・日本書紀)海軍神降 ・海洋系文化(60)⇒奈良系文化(90)
		60 第1回三國鼎立(シーザー)	48 クレオパトラ ⇒ カエサル		75 新羅一統説	97 新羅系(史記)の始まり 山
		48 カエサル⇒『ガリア戦記』を著す	48 クレオパトラ、エジプト滅亡		57 高句麗一統説	・海人系(皇居) ⇒ 対峙制 鹿
		44 カエサル(1)ガリアシーザー一掃	30 エジプト滅亡 ⇒ ローマの属国		37 百済一統説	29 崇仁天皇(11)
		27 帝政ローマ成立				
BC	BC	BC	BC	4 イエス誕生	BC	BC
AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD
	アンデス文明 ナスカ文化(ペルー) 神像、農耕、海上航	79 ペスゴオ火山噴火			2 仏教伝来 8 魏、建國 22 高句麗⇒扶余を滅ぼす 25 後漢 ⇒ 漢帝國復活(漢成帝) 32 後趙 57 明帝 ⇒ 漢の政敵三王に皇帝 100 北朝群 ⇒ 高句麗滅亡	4 伊勢神宮(内宮)創始
		96 五賢帝時代(=180年) ネロ、トラヤヌス、アウグストゥス、マルクス・アウレリウス	51 クレオパトラ王没(終身独裁)	20 イエス・キリスト降誕(ガザラの丘) キリスト教の歴史(12使徒) 68 ユダヤ人の反乱		71 景行天皇(12) ・西征東征(西⇒南韓、東⇒アイヌ)
		117 ローマ帝国、全盛期		125 ユダヤ人追放		
					184 漢の乱(農民反乱) ・高麗時代の到来 220 後漢滅亡 ⇒ 魏王朝建國 222 三国時代(魏、呉、蜀) 265 曹、魏滅(魏を滅ぶ取る) 280 曹、中国統一(=280年) 285 三国志、権人臣に『華夷図』 286 巧月帝(高麗)滅亡⇒統一高麗百二十國(多羅山崩壊)	
		313 キリスト教公認 ・325年ニカイア公会同		228 ペルシャ帝国成立(=651年) ・ササン朝		131 成務天皇(13) ⇒ 政体 新羅朝(797-94) ⇒ 国体
						192 神武天皇(14) 神功皇后即位 ⇒ 三韓征伐 300 八幡系文化⇒高麗系文化(777) 高麗系文化(高麗系文化⇒漢系文化) 270 応神天皇(15) ⇒ 皇統の始 ・神代皇族の移入 ・倭七部制人 ⇒ 倭文文明伝来 ・八幡系文化(777)漢系 ・八幡神社 ・第4皇子 ⇒ 仁徳天皇 ・第8皇子 ⇒ 聖德太子 ・聖德太子⇒アノノミヤ(豊後文明) ・神代皇族の系譜高麗系神 ・倭七部制人 ⇒ 高麗山(大塚) 310 仁徳天皇(16)
		375 ゲルマン民族大移動				大和朝廷 ・高麗、高麗、高麗が出土 ・七支刀 ・高土大塚山古墳(平塚池)⇒4世紀後半 391 倭国、朝鮮へ出兵 397 崇神天皇(17)
		395 ローマ帝国、東西分裂 ・東ローマ帝国、西ローマ帝国				

高城王朝(文天B代)

第

期

海土時代

三輪王朝

応神王

世界の歴史-3 (400年~758年)

社会体制	アメリカ	西 欧 - ロシア	エジプト・(北アフリカ)	中・南・西 アジア	中 国・(朝鮮)	日 本
		415 西ゴート王国 (~311年) ・フランス南西部からイベリア半島 452 ゴート王の東遷 ・カルタゴの東遷 476 西ローマ帝国滅亡 ・ゴート王王国建国(ゲルマン人) フランク王国の成立 486 ドイツ、フランス、イタリア、オランダ ベルギー、ルクセンブルグが独立 497 東ゴート王国 (~553年) フランク王国、サルカ法 ・女性皇位継承否定の習慣となる		530 マカメが征服	420 宋(南朝)、建國 439 北魏(北朝)、建國 南北朝時代 479 南朝、宋が滅び⇒齊、建國	408 后秦天監(18) 412 北魏天監(19) 433 梁天監(20) 456 陳天監(21) ・南化人が10,000人を超える 「大滅亡」= 南北朝、皇室、国家の統合分断の終結 「賢人」= 蘇東林(晋書) = 孝の理想化人 477 伊勢神宮(外宮)創建 490 清寧天皇(22) 485 額滿天皇(23) 488 仁賢天皇(24) 498 武烈天皇(25) 507 額滿天皇(26) 531 安閑天皇(27) 535 宣化天皇(28) 538 弘智天皇(西漢=聖明王の使者) 聖明天皇(29) ・八幡系天皇(大陰系天皇) 539 國體化(漢字文化=物部系)→神代(マニ教)導入 ・天孫信仰=自然崇拜(神道) ・神代vs國體化、威力争い⇒國體の意識を固く 572 額滿天皇(30) 581 聖明天皇(31) 585 皇子=皇孫太子 587 額滿天皇(32) ・聖明天皇崩御⇒皇孫皇子、神代人 皇孫氏は神代に同じ私姓に即位。 神代人は儒教思想で即位。 ・皇孫太子の革新へ上進する 592 額古天皇(33) 女帝 ⇒國體 ・聖德太子→法皇=國體(一神教から國體神教) 1) 聖德法 (神代國家)→天孫系國體 一曰、以初為貴、(初生)を以て貴しと為し、 604 額古天皇(34) 608 額古天皇(35) 女帝 ・生前即位 645 大化の改新(大化=最初の元号) ・聖德太子から天皇中心の政治へ移行 ①土地公民制 ②郡縣制度 ③班田收授の法(班田・調・租) 645 孝德天皇(36) 645 孝德天皇(37) 女帝 白村江の戦い ⇒ 唐軍→大軍の敗退 663 新羅との戦いが断たれる⇒島国→日本 668 天智天皇(38) ⇒ 中大兄皇子が即位 670 「日本国」名を定む 671 私文天皇(39) 672 壬申の乱 天智天皇(40) ⇒ 大海人皇子 673 志保の戦いを命じる 「日本」が漢文、「倭国」に異なる 690 神武天皇(41) 女帝 ・伊勢神宮、行幸 697 文武天皇(42) 701 倭国と日本国との戦い ⇒ 日本國海利 ・大嘗祭令 707 元明天皇(43) 女帝 708 日本初の通貨 ⇒ 和同開珎 平城京へ遷都(唐風) ・藤原氏、橘氏、藤原が台頭 ・貴族、仏教の天平文化が栄える 710 聖武天皇(44) ・聖武(聖=神) ・身代制度(唐風、唐風、聖武) ・古事記、日本書紀、万葉集、萬葉記 712 古事記=完成 715 元正天皇(44) 女帝 720 日本書紀=完成、714年⇒編纂下令 724 聖武天皇(45) 748 孝德天皇(46) 女帝 755 天香山(神代=長寿、3代⇒空海) 758 淳仁天皇(47)

古 代 史
中 世 史
近 世 史
現 代 史
大 和 政 体
家 族 制
皇 帝 制
天 皇 制

世界の歴史-4 (758年~1,300年)

社会体制	アメリカ	西 欧 ・ ロシア	エジプト・(北アフリカ)	中・西 アジア	中 国 ・ (朝 鮮)	日 本	
		768 フランク王国 ⇒ カール大帝即位 ・教皇が封建制度に同意			772 鮮人・白狼君, 出生 (-846年) ・新式解, 漢字解法に影響	764 額満天皇 (48) 女帝 770 元仁天皇 (48) 781 桓武天皇 (50) 794 平安京へ遷都(京都)	
		829 イングランド王国, 成立 フランク王国, 三分裂				806 平城天皇 (51) 809 嵯峨天皇 (52) 823 淳和天皇 (53) 833 仁明天皇 (54) 850 文徳天皇 (55) 858 清和天皇 (56) 876 醍醐天皇 (57) 884 光孝天皇 (58) 887 宇多天皇 (59) 894 道徳院廃止 897 醍醐天皇 (60)	
		843 ヴェルダン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基礎 ノヴゴロド王国, 成立 ルーリック ⇒ ロシアの起源 フランク王国, 再分裂 ・メルセン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基 880 キエフ公国, 成立			唐, 滅亡 ⇒ 五代十国 ・五代(中唐)⇒後漢, 後周, 後唐, 後晋, 後梁 ・十国⇒中原系諸国 907 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗, 百濟 935 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗に吸収される 960 宋, 建国 (-1279年)	920 泰康天皇 (61) 946 村上天皇 (62) 967 海康天皇 (63) 969 醍醐天皇 (64) 984 花山天皇 (65) 988 一皇天皇 (66)	
		942 神聖ローマ帝国				1011 三皇天皇 (67) 1016 後一皇天皇 (68) 1026 後朱雀天皇 (69) 1045 後冷泉天皇 (70) 1068 後三皇天皇 (71) 1072 白河天皇 (72) 1086 後河原天皇 (73)	
		1000 ハンガリー王国				1107 鳥羽天皇 (74)	
		1037 カノッサの屈辱 ドイツ皇帝ローマ法王に服従 第1回十字軍	1038 セルジューク(トルコ), 建国(-1317年) ・イラン, イラク, トルクメニスタン を中心とした, イスラム王朝			1123 養徳天皇 (75) 1141 延光天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 保元の乱 ・後白河天皇方と崇徳上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二皇天皇 (78) 平治の乱 1159 保元平治と源平合戦の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六皇天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大権となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)	
		1094 聖地エルサレムの奪還 ⇒1172年まで6回繰り返す				1107 鳥羽天皇 (74)	
		1147 第2回十字軍	1130 ムワッヒド朝 (~1268年) ・イスラム王朝 (バグダッド) ・890, 910年, 北アフリカ, アフリカ ・首都⇒マラケシュ	1132 西夏 (1218年) 1148 インド, ゴール朝 1150 カンボジアのアナンコール・ワット建設	1115 金, 建国 ・蒙古, 女真(金, 国)による 1127 南宋, 建国 ・金が北宋を滅ぼし, 南宋成立	1123 養徳天皇 (75) 1141 延光天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元の乱 ・後白河天皇方と崇徳上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二皇天皇 (78) 平治の乱 1159 保元平治と源平合戦の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六皇天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大権となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)	
		1189 第3回十字軍				1123 養徳天皇 (75) 1141 延光天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元の乱 ・後白河天皇方と崇徳上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二皇天皇 (78) 平治の乱 1159 保元平治と源平合戦の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六皇天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大権となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)	
		1204 第4回十字軍(ヴェネツィア艦隊) 1212 少年十字軍 1215 イギリス, 大憲章(マグナ・カルタ) 1216 第5回十字軍 1228 第6回十字軍 1248 第7回十字軍 大空位時代 (~1232年) ・ローマ法廷継承が不安定な時期 1258 第8回十字軍 ハブスブルグ家 ⇒ ローマ皇帝 ・1198年皇帝位継承→継承権放棄 第9回十字軍⇒終結 ・十字軍諸家は衰退 ・バルカン半島はイスラム圏となる 1296 マルコポーロ, 「東方見聞録」著 1300 ルネッサンス(文艺复兴)が始まる	1189 アイユブ朝 (~1250年) ・イスラム王朝 (カフカス) ・シリア, シベリヤ	1187 エルサレム王国, 滅亡	1204 ラテン帝国(十字軍国家), 勃興 モンゴルの帝国, 建国(チンギス・ハン) 1206 蒙古統一 ・成吉思汗(蒙, 西, 南) 1208 デリール=スルタン朝 (~1526年) ・イスラム王朝(蒙人征服王朝) ・北インド一帯 1271 蒙元(大蒙, 西, 南) ・成吉思汗(蒙, 西, 南) ・漢語 ⇒ 新羅語 ⇒ 日本語	1224 金, 滅亡 ・南宋とモンゴルの対立 1279 南宋, 滅亡 元と高麗-高麗 元と高麗-高麗	1210 額満天皇 (84) 1221 承久の乱(後鳥羽上皇) 1221 神武天皇 (85) 1221 後醍醐天皇 (86) 1232 四皇天皇 (87) 1242 後嵯峨天皇 (88) 1248 後深草天皇 (89) 1253 后白河天皇 (90) 1274 後宇多天皇 (91) 1274 元永の役(蒙古襲来-1) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1281 元永の役(蒙古襲来-2) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1287 伏見天皇 (92) 1298 後伏見天皇 (93)
2000	クスクス国樹立 ・小規模な都市国家 ・インカ帝国に引き継がれる						

第 二 期
山 城 国 体
北 条 政 体

世界の歴史-5 (1,300年~1,654年)

社会体制	アメリカ	西 欧 ・ ロシア	エジプト・(北アフリカ)	中・南・西 アジア	中 国 ・ (朝 鮮)	日 本
		768 フランク王国 ⇒ カール大帝即位 ・教皇が封建制度に同意			772 韓人・白雉貢, 出生 (-846年) ・新式解, 漢字解法に影響	764 額敏天皇 (48) 女帝 770 元仁天皇 (48) 781 桓武天皇 (50) 794 平安京へ遷都(京都)
		829 イングランド王国, 成立 フランク王国, 三分裂				806 平城天皇 (51) 809 嵯峨天皇 (52) 823 淳和天皇 (53) 833 仁明天皇 (54) 850 文徳天皇 (55) 858 清和天皇 (56) 876 陽成天皇 (57) 884 光孝天皇 (58) 887 宇多天皇 (59) 894 道徳院廃止 897 醍醐天皇 (60)
		843 ヴェルダン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基礎 ノヴゴロド王国, 成立 ・ルーリック ⇒ ロシアの起源 フランク王国, 再分裂 ・メルセン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基 880 キエフ公国, 成立			唐, 滅亡 ⇒ 五代十国 ・五代(中唐)⇒後漢, 後周, 後唐, 後晋, 後梁 ・十国⇒中原系諸国 907 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗, 百濟 935 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗に吸収される 960 宋, 建国 (-1279年)	920 象徳天皇 (61) 946 村上天皇 (62) 967 清和天皇 (63) 969 醍醐天皇 (64) 984 花山天皇 (65) 988 一統天皇 (66)
		942 神聖ローマ帝国				1011 三皇天皇 (67) 1016 後一統天皇 (68) 1026 後朱雀天皇 (69) 1045 後冷泉天皇 (70) 1068 後三皇天皇 (71) 1072 白河天皇 (72) 1086 堀河天皇 (73)
		1000 ハンガリー王国				1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 延久天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実盛) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・後醍醐天皇と源頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 後鳥羽天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)
		1037 カノッサの屈辱 ドイツ皇帝ローマ法王に服従 第1回十字軍		セルジューク(トルコ), 建国(-1151年) ・イラン, イラク, トルクメニスタン を中心とした, イスラム王朝		1011 三皇天皇 (67) 1016 後一統天皇 (68) 1026 後朱雀天皇 (69) 1045 後冷泉天皇 (70) 1068 後三皇天皇 (71) 1072 白河天皇 (72) 1086 堀河天皇 (73) 1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 延久天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実盛) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・後醍醐天皇と源頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 後鳥羽天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)
		1094 聖地エルサレムの奪還 ⇒1172年まで6回奪還				1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 延久天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実盛) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・後醍醐天皇と源頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 後鳥羽天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)
		1147 第2回十字軍	ムワッヒド朝 (-1269年) ・イスラム王朝 (バグダッド) ・899, 901, 902, 903, 904, 905 ・首都⇒バグダッド	1132 西夏 (1218年) 1148 インド, ゴール朝 1150 カンボジアのアナンコールワット建設	1115 金, 建国 ・蒙古, 女真(金, 国)による 1127 南宋, 建国 ・金が北宋を滅ぼし, 南宋成立	1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 延久天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実盛) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・後醍醐天皇と源頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 後鳥羽天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)
		1189 第3回十字軍	アイユーブ朝 (-1250年) ・イスラム王朝 (バグダッド) ・シリア, シベリヤ	1187 エルサレム王国, 滅亡		1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 延久天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実盛) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・後醍醐天皇と源頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 後鳥羽天皇 (84) 1198 土御門天皇 (85)
		1204 第4回十字軍(ヴェネツィア艦隊) 1212 少年十字軍 1215 イギリス, 大憲章(マグナ・カルタ) 1216 第5回十字軍 1228 第6回十字軍 1248 第7回十字軍 大空位時代 (-1232年) ・ローマ法廷継承が不安定な時期 1258 第8回十字軍 ハブズブルグ家 ⇒ ローマ皇帝 ・1273年皇帝即位⇒神聖ローマ皇帝 第9回十字軍⇒終結 ・十字軍諸国は衰退 ・パルチザン化(イスラム側となる) マルコポーロ, 「東方見聞録」著 ルネッサンス(文艺复兴)が始まる		1204 ラテン帝国(十字軍国家), 勃興 モンゴル帝国, 建国(チンギス・ハーン) 1206 蒙古統一 ・成吉思汗(蒙, 西, 南) 1206 デリー⇒スルタン朝 (-1526年) ・イスラム王朝(東人部族王朝) ・北インド一帯 1211 蒙元(大, 西, 南) ・漢語 ⇒ 新羅語 ⇒ 日本語 1219 オスマントルク帝国, 建国 ・多民族帝国	1234 金, 滅亡 ・南宋とモンゴルの対立	1210 額敏天皇 (84) 1221 承久の乱(後鳥羽上皇) 1221 神武天皇 (85) 1221 後堀河天皇 (86) 1232 四条天皇 (87) 1242 後嵯峨天皇 (88) 1248 後深草天皇 (89) 1253 后白河天皇 (90) 1274 後宇多天皇 (91) 1274 元永の役(蒙古襲来-1) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1281 元永の役(蒙古襲来-2) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1287 伏見天皇 (92) 1298 後伏見天皇 (93)

第 二 期
山 城 国 体
平 安 時 代
鎌 倉 時 代
北 条 政 体

世界の歴史-6 (1, 654年~1, 917年)

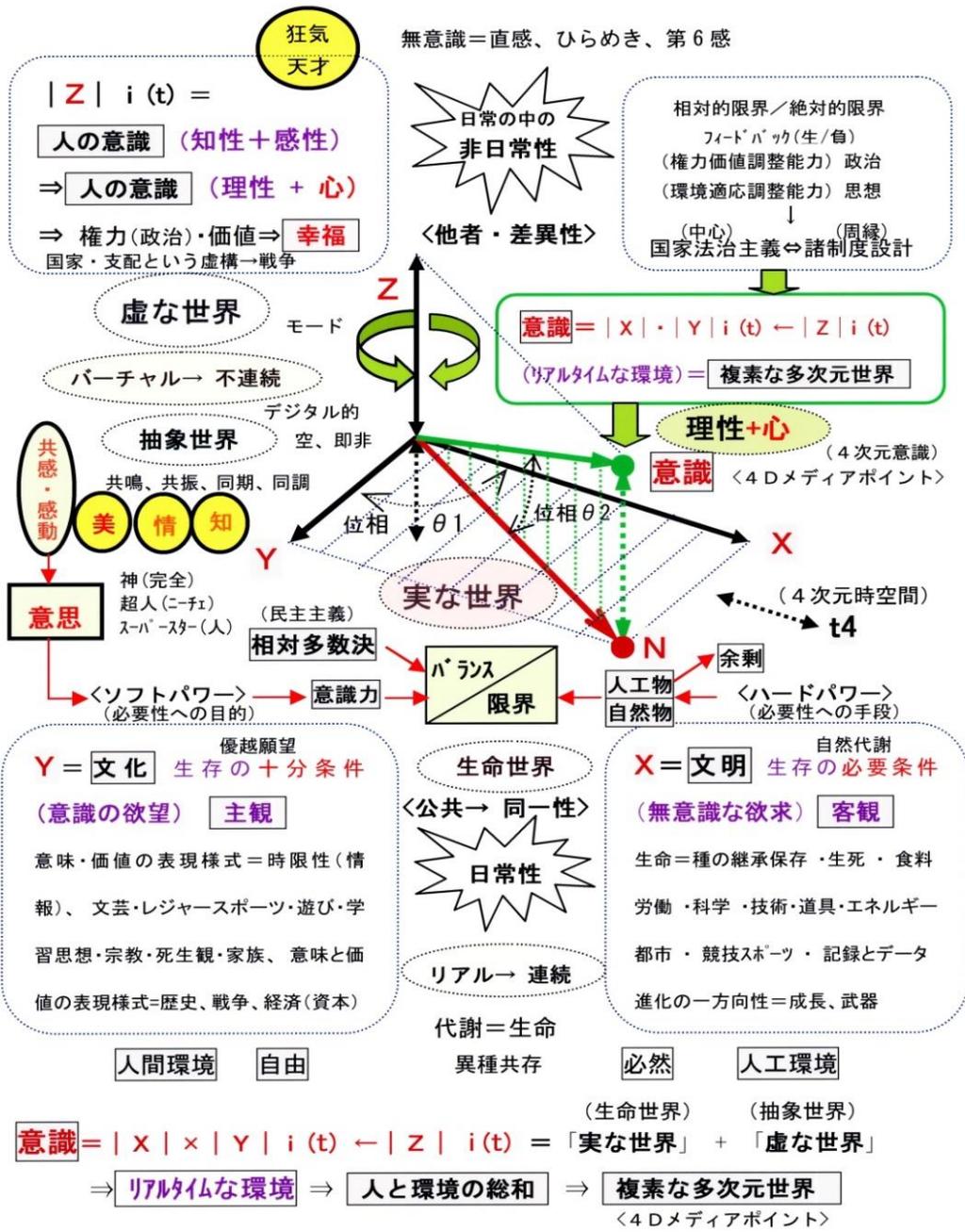
社会体制	アメリカ	西 欧 ・ ロシア	エジプト・(北アフリカ)	中・南・西 アジア	中 国 ・ (朝 鮮)	日 本	
		768 フランク王国 ⇒ カール大帝即位 ・教皇が封建制度に同意			772 韓人・白狼君, 出生 (-846年) ・新式解, 漢字解法に影響	764 額満天皇 (48) 女帝 770 元仁天皇 (48) 781 桓武天皇 (50) 794 平安京へ遷都(京都)	
		829 イングランド王国, 成立 フランク王国, 三分裂				806 平城天皇 (51) 809 嵯峨天皇 (52) 823 淳和天皇 (53) 833 仁明天皇 (54) 850 文徳天皇 (55) 858 清和天皇 (56) 876 陽成天皇 (57) 884 光孝天皇 (58) 887 宇多天皇 (59) 894 道徳院廃止 897 醍醐天皇 (60)	
		843 ヴェルダン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基礎 ノヴゴロド王国, 成立 ・ルーリック - ロシアの起源 フランク王国, 再分裂 ・メルセン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基 880 キエフ公国, 成立			唐, 滅亡 ⇒ 五代十国 ・五代(中唐)⇒後漢, 後周, 後唐, 後晋, 後梁 ・十国⇒中原系諸国 907 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗, 百濟 935 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗に吸収される 960 宋, 建国 (-1279年)	920 泰康天皇 (61) 946 村上天皇 (62) 967 清和天皇 (63) 969 醍醐天皇 (64) 984 花山天皇 (65) 986 一条天皇 (66) 1011 三条天皇 (67) 1016 後一条天皇 (68) 1026 後朱雀天皇 (69) 1045 後冷泉天皇 (70) 1068 後三条天皇 (71) 1072 白河天皇 (72) 1086 後河原天皇 (73)	
		942 神聖ローマ帝国				1011 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 近衛天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と平治上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・保元平治の乱の源氏側の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川義朝 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (84)	
		1000 ハンガリー王国				1115 倉、建国 ・蒙古, 女真(金)による 1127 南宋, 建国 ・金が北宋を滅ぼし, 南宋成立	1107 三條天皇 (67) 1016 後一条天皇 (68) 1026 後朱雀天皇 (69) 1045 後冷泉天皇 (70) 1068 後三条天皇 (71) 1072 白河天皇 (72) 1086 後河原天皇 (73)
		1037 カノッサの屈辱 ドイツ皇帝ローマ法王に服従 第1回十字軍		1038 セルジューク(トルコ), 建国(-1317年) ・イラン, イラク, トルクメニスタン を中心とした, イスラム王朝		1115 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 近衛天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と平治上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・保元平治の乱の源氏側の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川義朝 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (84)	
		1094 聖地エルサレムの奪還 →1172年まで6回奪還				1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 近衛天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と平治上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・保元平治の乱の源氏側の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川義朝 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (84)	
		1147 第2回十字軍	1130 ムワッハド朝 (~1268年) ・イスラム王朝 (オム・ベムル) ・899, 910, 917, 928, 939, 944 ・首都⇒マラケシュ	1132 西夏 (1218年) 1148 インド, ゴール朝 1150 カンボジアのアナンコールワット建設		1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 近衛天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と平治上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・保元平治の乱の源氏側の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川義朝 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (84)	
		1189 第3回十字軍	1189 アイユブ朝 (~1250年) ・イスラム王朝 (ムフタフ) ・シリア, シベリヤ	1187 エルサレム王国, 滅亡		1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 近衛天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と平治上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・保元平治の乱の源氏側の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川義朝 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (84)	
		1204 第4回十字軍(ラテヴィツァ襲撃) 1212 少年十字軍 1215 イギリス, 大憲章(マグナ・カルタ) 1216 第5回十字軍 1228 第6回十字軍 1248 第7回十字軍 大空位時代 (~1232年) ・ローマ法廷継承が不安定な時期 1258 第8回十字軍 ハブズブルグ家 ⇒ ローマ皇帝 ・1273年皇帝即位⇒神聖ローマ皇帝 第9回十字軍⇒終結 ・十字軍諸家は衰退 ・バルカン半島はイスラム圏となる 1296 マルコポーロ, 「東方見聞録」著 1300 ルネッサンス(人文復興)が始まる	1204 ムワッハド朝 (~1268年) ・イスラム王朝 (オム・ベムル) ・899, 910, 917, 928, 939, 944 ・首都⇒マラケシュ 1204 マルムウク朝 (~1517年) ・イスラム王朝 (スンニ派) ・シリア, シベリヤ ・首都⇒カイロ	1204 ラテン帝国(十字軍国家), 勃興 モンゴル帝国, 建国(チンギス・ハーン) 1206 蒙古統一 ・成吉思汗(蒙, 清) 1206 デリー⇒スルタン朝 (~1526年) ・イスラム王朝(軍人貴族王朝) ・北インド一帯 1271 蒙古 ⇒ 「元」に改称(~1268年) ・成吉思汗(蒙, 清) ・漢語交流が促進 ・漢語 ⇒ 新羅語 ⇒ 日本語 1299 オスマン・トルコ帝国, 建国 ・多民族帝国	1234 金, 滅亡 ・南宋とモンゴルの対立 1279 南宋, 滅亡 元と元朝(高麗) 元と元朝(高麗)	1107 鳥羽天皇 (74) 1123 康徳天皇 (75) 1141 近衛天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 1156 保元平治の乱 ・後白河天皇方と平治上皇方の争い ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 1158 二条天皇 (78) 1159 平治の乱 ・保元平治の乱の源氏側の対立 ・平家隆盛が後白河天皇の基礎を固める 1165 六条天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1168 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川義朝 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (84) 1210 額満天皇 (84) 1221 承久の乱(後鳥羽上皇) 1221 神徳天皇 (85) 1221 後堀河天皇 (86) 1232 四条天皇 (87) 1242 後嵯峨天皇 (88) 1248 後深草天皇 (89) 1259 后白河天皇 (90) 1274 後宇多天皇 (91) 1274 元永の役(蒙古襲来-1) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1281 元永の役(蒙古襲来-2) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1287 伏見天皇 (92) 1298 後伏見天皇 (93)	

第 二 期
山 城 派
体
北 条 政 体

世界の歴史-7 (1. 917年~2. 018年)

社会体制	アメリカ	西 欧 ・ ロシア	エジプト・(北アフリカ)	中・西 アジア	中 国 ・ (朝 鮮)	日 本
		768 フランク王国 ⇒ カール大帝即位 ・教皇が封建制度に同意			772 韓人・白狼君, 出生 (-846年) ・新式解, 漢字解法に影響	764 順徳天皇 (48) 女帝 770 元仁天皇 (48) 781 桓武天皇 (50) 794 平安京へ遷都(京都)
		829 イングランド王国, 成立 フランク王国, 三分裂				806 平城天皇 (51) 809 嵯峨天皇 (52) 823 淳和天皇 (53) 833 仁明天皇 (54) 850 文徳天皇 (55) 858 清和天皇 (56) 876 陽成天皇 (57) 884 光孝天皇 (58) 887 宇多天皇 (59) 894 道徳院廃止 897 醍醐天皇 (60)
		843 ヴェルダン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基礎 ノヴゴロド王国, 成立 ・ルーリック - ロシアの起源 フランク王国, 再分裂 ・メルセン条約 ・イタリア, フランス, ドイツの基 880 キエフ公国, 成立			唐, 滅亡 ⇒ 五代十国 ・五代(中唐)⇒後漢, 後周, 後唐, 後晋, 後周 ・十国⇒中原系諸国 907 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗, 百濟 935 新羅, 滅亡 ⇒ 高麗に吸収される 960 宋, 建国 (-1279年)	920 象皇天皇 (61) 946 村上天皇 (62) 967 清和天皇 (63) 969 醍醐天皇 (64) 984 花山天皇 (65) 988 一皇天皇 (66) 1011 三皇天皇 (67) 1016 後一皇天皇 (68) 1026 後朱雀天皇 (69) 1045 後冷泉天皇 (70) 1066 後三皇天皇 (71) 1072 白河天皇 (72) 1086 後河原天皇 (73) 1107 鳥羽天皇 (74)
		942 神聖ローマ帝国				1011 三皇天皇 (67) 1016 後一皇天皇 (68) 1026 後朱雀天皇 (69) 1045 後冷泉天皇 (70) 1066 後三皇天皇 (71) 1072 白河天皇 (72) 1086 後河原天皇 (73) 1107 鳥羽天皇 (74)
		1000 ハンガリー王国				1107 鳥羽天皇 (74)
		1037 カノッサの屈辱 ドイツ皇帝がローマ法王に服従 第1回十字軍		セルジューク(トルコ), 建国(-1037年) ・イラン, イラク, トルクメニスタン を中心とした, イスラム王朝		1107 鳥羽天皇 (74)
		1094 聖地エルサレムの奪還 ⇒1192年まで6回奪還				1107 鳥羽天皇 (74)
		1147 第2回十字軍	ムワッヒド朝 (~1269年) ・イスラム王朝 (バムベルク) ・890, 910, 927, 938, 974, 981 ・首都⇒マラケシュ	1132 西夏 (1218年) 1148 インド, ゴール朝 1150 カンボジアのアナンコール・ワット建設	1115 金, 建国 ・蒙古, 女真(鮮)族による 1127 南宋, 建国 ・金が北宋を滅ぼし, 南宋成立	1107 鳥羽天皇 (74) 1123 養徳天皇 (75) 1141 込光天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 保元の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 二皇天皇 (78) 平治の乱 ・後醍醐天皇と藤原頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六皇天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1169 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川幕府 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (83)
		1189 第3回十字軍	アイユーブ朝 (~1250年) ・イスラム王朝 (カフカス) ・シリア, シベリヤ	1187 エルサレム王国, 滅亡		1107 鳥羽天皇 (74) 1123 養徳天皇 (75) 1141 込光天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 保元の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 二皇天皇 (78) 平治の乱 ・後醍醐天皇と藤原頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六皇天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1169 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川幕府 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (83)
		1204 第4回十字軍(ヴェネツィア艦隊) 1212 少年十字軍 1215 イギリス, 大憲章(マグナ・カルタ) 1216 第5回十字軍 1228 第6回十字軍 1248 第7回十字軍 大空位時代 (~1232年) ・ローマ法王選挙が不安定な時期 第8回十字軍 ハブスブルグ家 ⇒ ローマ皇帝 ・1198年選挙で即位⇒選挙権が中央集権 第9回十字軍⇒終結 ・十字軍諸国は衰退 ・バルカン半島はイスラム圏となる マルコポーロ, 「東方見聞録」著 ルネッサンス(文芸復興)が始まる		1204 ラテン帝国(十字軍国家), 勃興 モンゴル帝国, 建国(チンギス・ハーン) 1206 蒙古統一 ・成吉思汗(蒙, 西, 南) 1206 デリール=スルタン朝 (~1526年) ・イスラム王朝(蒙人征服王朝) ・北インド=蒙 1211 蒙元(蒙, 西, 南) ・成吉思汗(蒙, 西, 南) ・成吉思汗(蒙, 西, 南) 1211 南宋, 滅亡	1107 鳥羽天皇 (74) 1123 養徳天皇 (75) 1141 込光天皇 (76) 1155 後白河天皇 (77) 保元の乱 ・後白河天皇方と後醍醐天皇方 ・武士の台頭(源頼朝, 平実朝) 二皇天皇 (78) 平治の乱 ・後醍醐天皇と藤原頼朝の対立 ・平家隆盛が後醍醐天皇の基礎を築く 1165 六皇天皇 (79) 1167 平清盛, 大政大臣となる 1169 高倉天皇 (80) 1180 安徳天皇 (81) 1183 後鳥羽天皇 (82) 1185 堀河天皇 (83) 1189 徳川幕府 (源頼朝) 1198 土御門天皇 (83)	
2000 クスコ王国樹立 ・小規模な都市国家 ・インカ帝国に引き継がれる					1234 金, 滅亡 ・南宋とモンゴルが対峙	1210 順徳天皇 (84) 1221 承久の乱(後鳥羽上皇) 1221 神武天皇 (85) 1221 後醍醐天皇 (86) 1232 四皇天皇 (87) 1242 後嵯峨天皇 (88) 1248 後深草天皇 (89) 1253 后深草天皇 (90) 1259 后深草天皇 (91) 1274 後宇多天皇 (91) 1274 元永の役(蒙古襲来-1) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1281 元永の役(蒙古襲来-2) ・モンゴル, 高麗 ⇒ 九州侵襲 1287 伏見天皇 (92) 1298 後伏見天皇 (93)

第 二 期
山 城 派
体
北 条 政 体



信号脳 ↓ 複素的認識 = 人工知能の認識

【文明と文化の解釈】

1. **文明とは** → **実な世界（進み位相） = X**

◆ 広域生活技術と規範

◆ 普遍性 → 都市、産業、科学、法典

◆ 可視的 → 物質性進化の一方向性

(i = 虚数記号)

2. **文化とは** → **実な世界（遅れ位相） = (i) Y**

◆ 特定価値の生活様態

◆ 多様性 → 宗教、思想、様々な価値様態

◆ 文明制御 → 文明より遅れて出現、価値のバイアス制御

3. **意識とは** → **虚な世界 = (i) Z**

◆ 意識の結像 → ニューラルネットワーク上の信号形象（虚像）

◆ 脳機能 → 信号処理、保存・上書き、創発

◆ **複素的認識統合** = $\Sigma [\text{文明} \times (i) \text{文化} + (i) \text{意識}]$
= $\Sigma [X \cdot (i) Y + (i) Z]$

【複素(数)表現 = 和 = 総合 の例】

光	→	粒子の性質	+	(i)	波動の性質
可視	→	見える	+	(i)	見えない
信号	→	デジタル (離散)	+	(i)	アナログ (連続)
思考	→	客観的思考	+	(i)	主観的思考
学問	→	理系 (抽象→実証)	+	(i)	文系 (抽象→物語)
論理	→	2進法 (欧米)	+	(i)	60進法 (アジア)
技術	→	ハードウェア	+	(i)	ソフトウェア
宗教	→	一神教 (2元論)	+	(i)	多神教 (多元論)
社会	→	文明 (広域普遍性)	+	(i)	文化 (特定域多様性)

考える上での基礎事項 - 1

量子物理学から

観測により、目に見え、数える、ことができる物質的存在は、
宇宙総体のたった5%未満。(科学的証明の限界)
95%以上はダークマター(暗黒物質でまだ分からない)

相対性理論から、観測者の視点の違いにより、空間的・時間的な結果は異なる。

客観的とは = いかなる観測者(見る)によっても、同じ結果を得ること
(真実の普遍性)

主観的とは = 一人の観測者(見る)が得る結果で、必ずしも他の観測者が、
同じ結果を得られるとは限らないこと (真実の断片性)ビッグデータ活用時代

認識とは = 人間の意識は、5感による入力信号により、脳内でイメージを形成し
認識となる。その時間は最大で 0.5秒 遅れる。

ベンジャミン・リベット 『マインド・タイム』(脳と意識の時間を発表)

複素的世認識 = 実数 + 虚数 = 実物世界(客観的) + 感性世界(主観的)

考える上での基礎事項 - 2

分子生物学から

生体を構成している分子は環境からやってきて、一時、「**淀み**」として私たちの体を作り出し、次の瞬間にはまた環境へと解き放たれる。環境は常に私たちの身体を通り抜けている「**流れ**」そのものであり、その「**流れ**」自体が「**生きている**」ということになる。

「**生命**」とは、「**動的な平衡状態にあるシステム**」である。

シェーン・ハイマーが提唱 → 「動的な平衡」: 福岡伸一

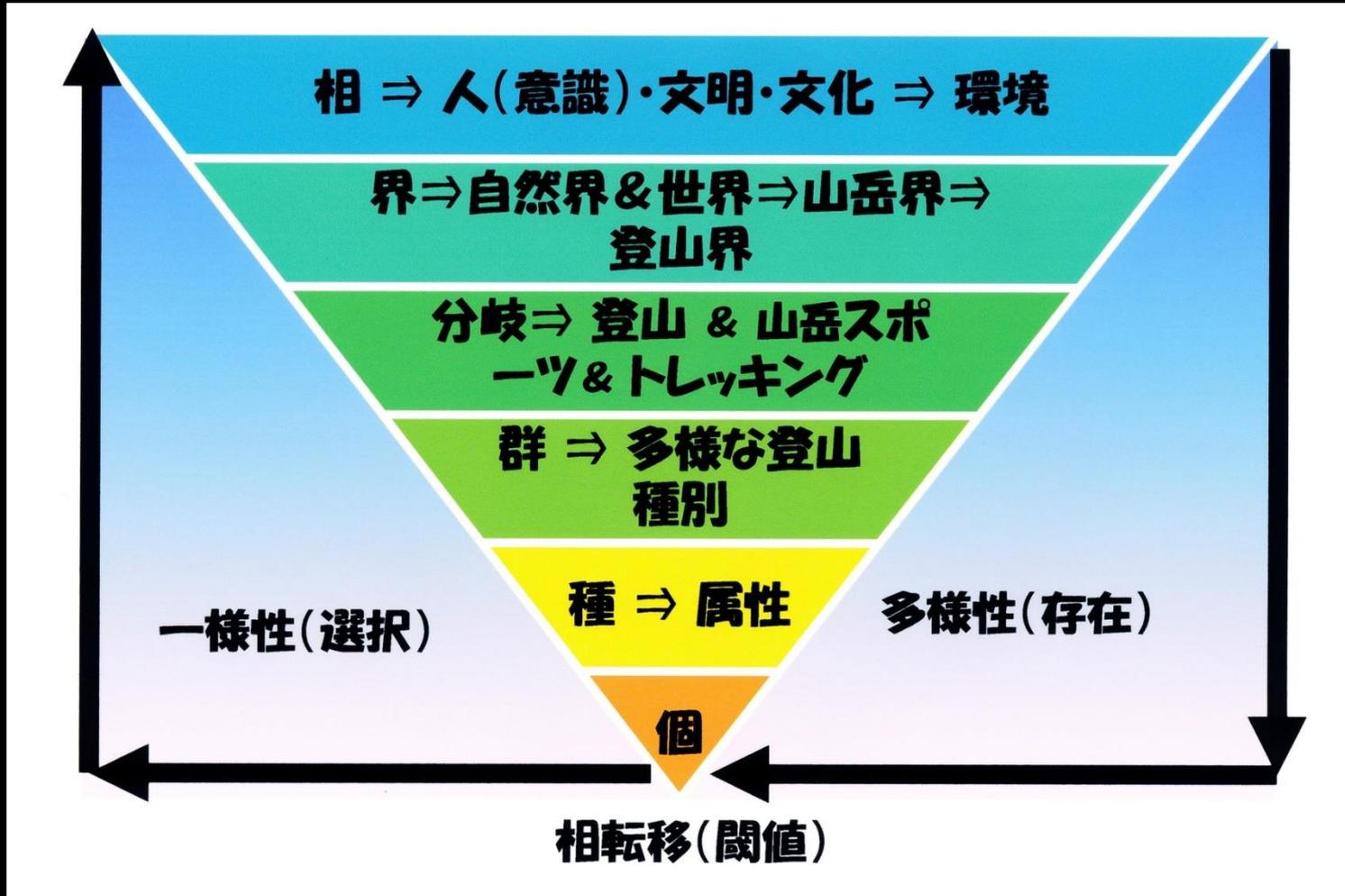
動的平衡理論から、分子によって作られる物質は、絶えず空間的・時間的な流れの中で、**代謝**を繰り返し変容している。だから人間は、次世代への引継ぎ（**代謝**）が大切！！

生命とは = 環境の中で、**代謝**を続けながら継続を保つ状態

生きるとは = 環境変化の流れの中で、**淀みの**個体として運動すること

複素的思考法からの相転移 (例=登山)

形而上 (抽象)



形而下 (具象)

生物界における人間の特徴

1) ホモ・サピエンス = 賢い(考える)人間(考える人)

- ◆ 人間は考える葦である・・・フランスの思想家パスカルの言葉(パンセー)
- ◆ 幸福感、充足感、充実感 ~ 価値観

2) ホモ・ファールベル = 物を作る人間(文明人)

- ◆ 道具を作り、生活を豊かにさせる(衣・食・住 → 都市生活) = 日常
- ◆ 山岳施設整備 → 非日常的环境(自然)を日常性の中に組み込む

3) ホモ・ルーデンス = 遊戯(遊ぶ)人間(文化人)

- ◆ オランダの歴史家・・・ヨハン・ホイジンガ、1938年発表(1971和訳版)
- ◆ 登山、山岳スポーツ、ハイキング ~ 健康運動、運動競技、知的遊び

4) ホモ・エコノミクス = 経済合理主義的人間(経済人)

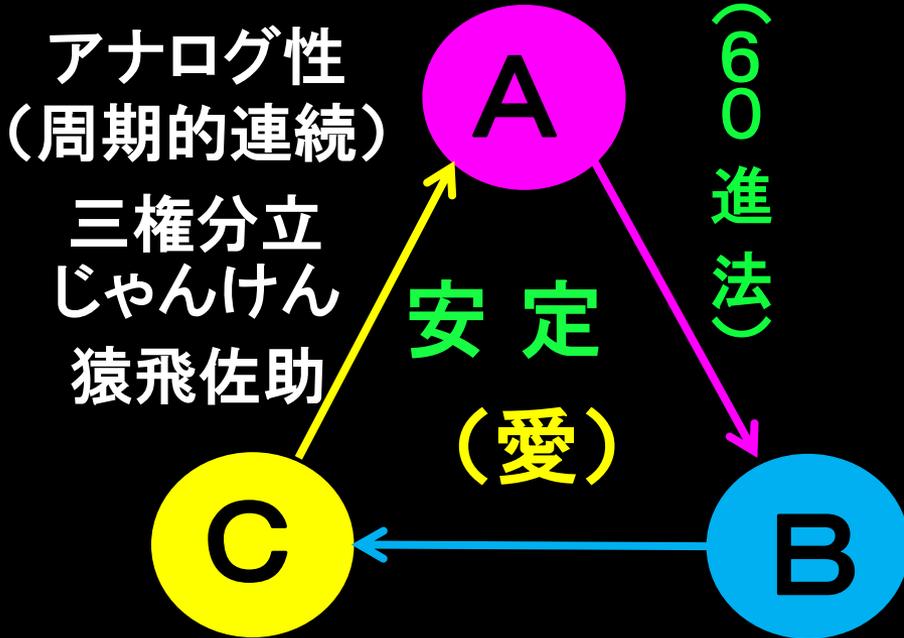
- ◆ 経済の本質 = 経世済民 → 資本独占(私利私欲) → トランプ現象
経世済民 = 中国のことわざ → 世を経(おさめ)、民を済(すくう)

文化

(多様な享受・価値)

心の幸福 = 感受性・思索・欲求

相補・調和 → (愛)



(自己消滅) 同化の美学 →

星の王子さま

死

生きる (一方向性)

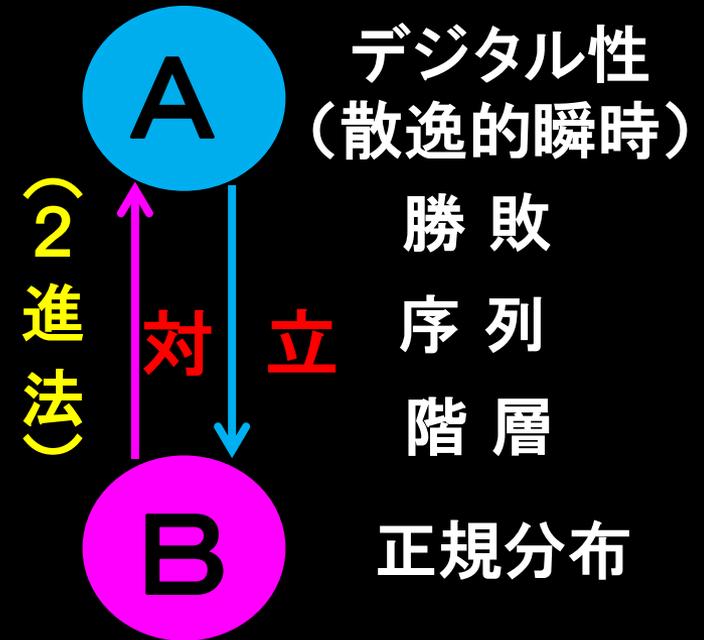
生

文明

(進化の一方向性)

優者の幸福 = 差別、優劣

絶対者 → (神)



← 抵抗の美学 (自己主張)

かもめのジョナサン

独学の基点

1978年(40年前=32歳) ヒマラヤ登山

遭難死亡事故体験

マナスル3山は日本隊が初登頂

マナスル (8163m) **P29** (7871m) **ヒマルチュリ** (7893m)

日本山岳会

大阪大学

慶応大学

1956年

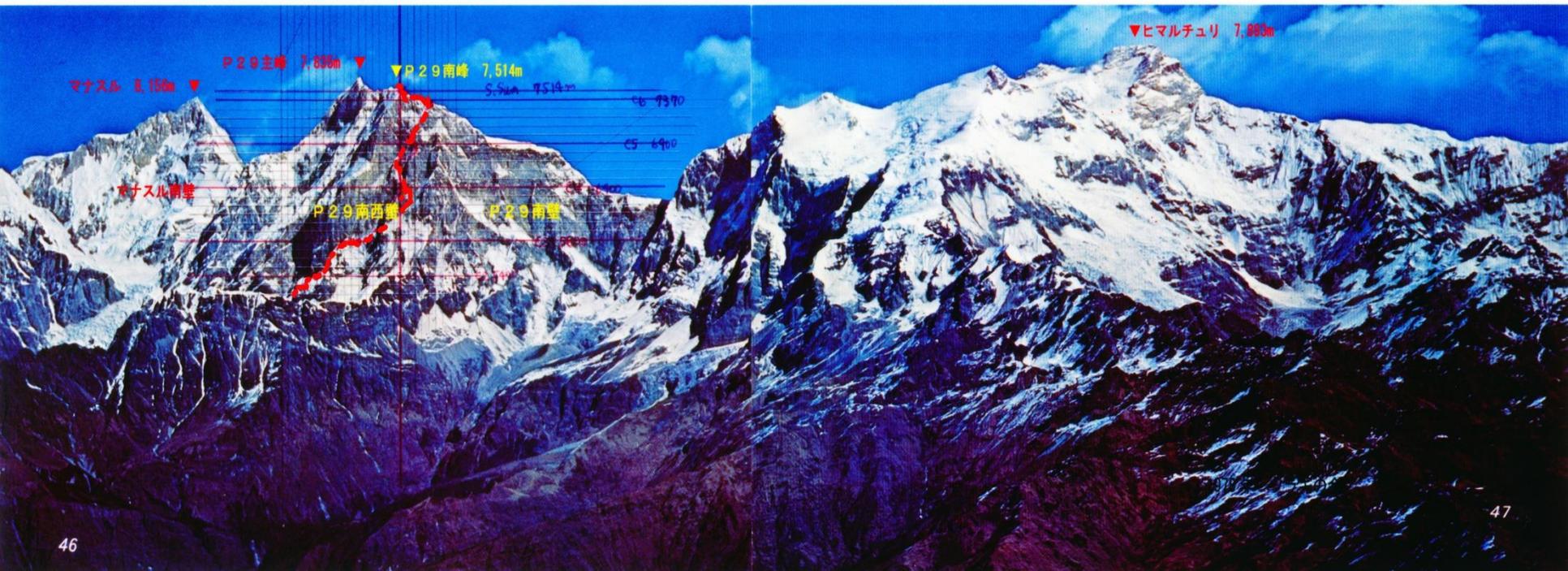
1970年

1960年

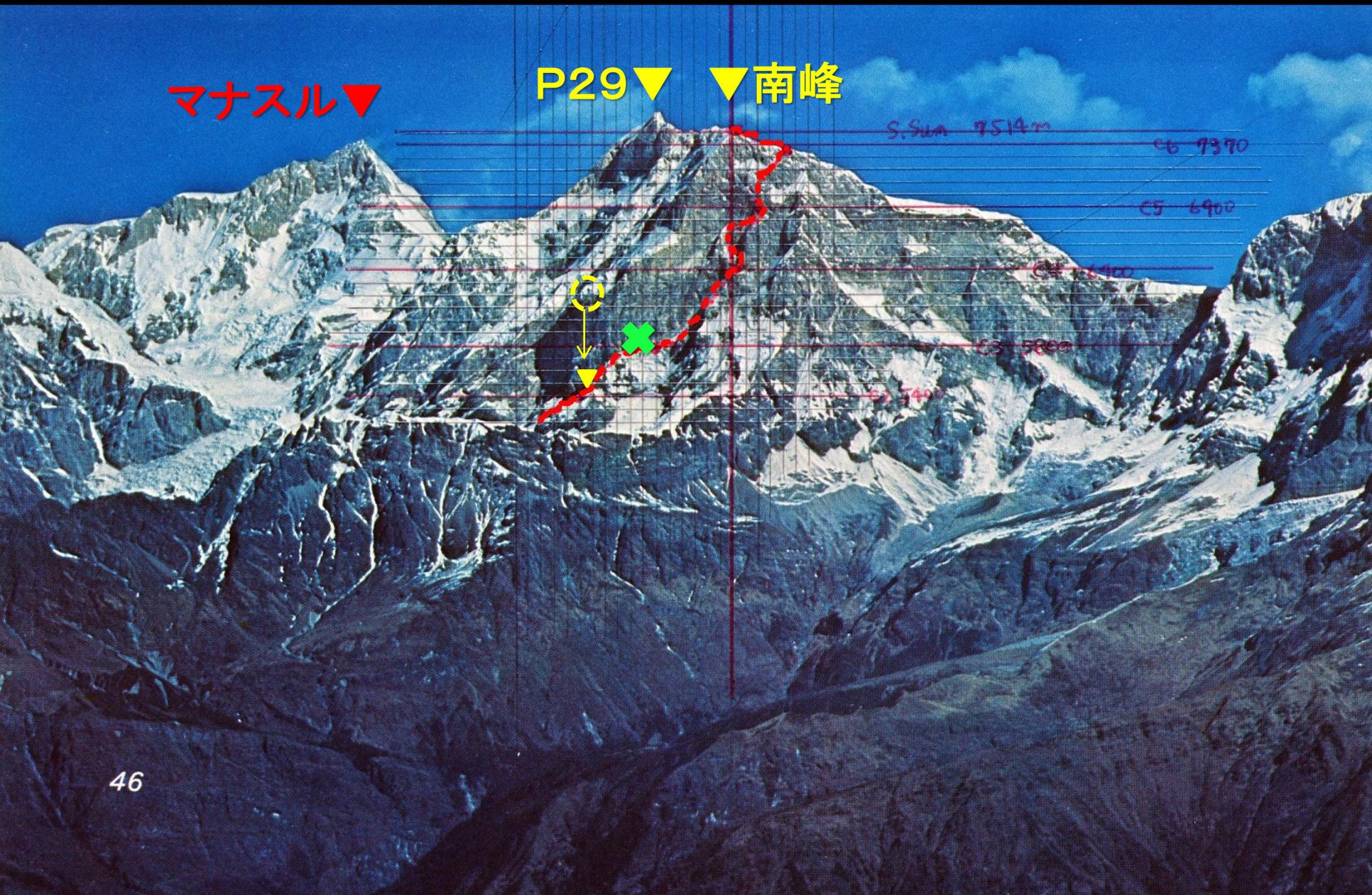
以降、山の高さは1978年当時の古いデータのままとします。

<一目盛=100m>

『空から見たヒマラヤ』 : NHK取材班・著 : 1978年6月1日 発行 : 日本放送協会



P29南西壁登攀 (1974年、1978年)



氷河から 2,000m 登る

傾斜60° 南西壁の始まり ▼



ツラギ氷河

南西壁基部

足元を見下ろすと！氷河

氷河からの高度差≒1,400m



6,000m 大岩壁直下

▼セカンドを登るサーダー(シェルパ頭)



高度6,000m氷の尾根を登る2隊員

酸素分圧が1/2となり、呼吸は苦しい



大岩壁に向かってトップを登る

初めて印す足跡に気分は高揚！！

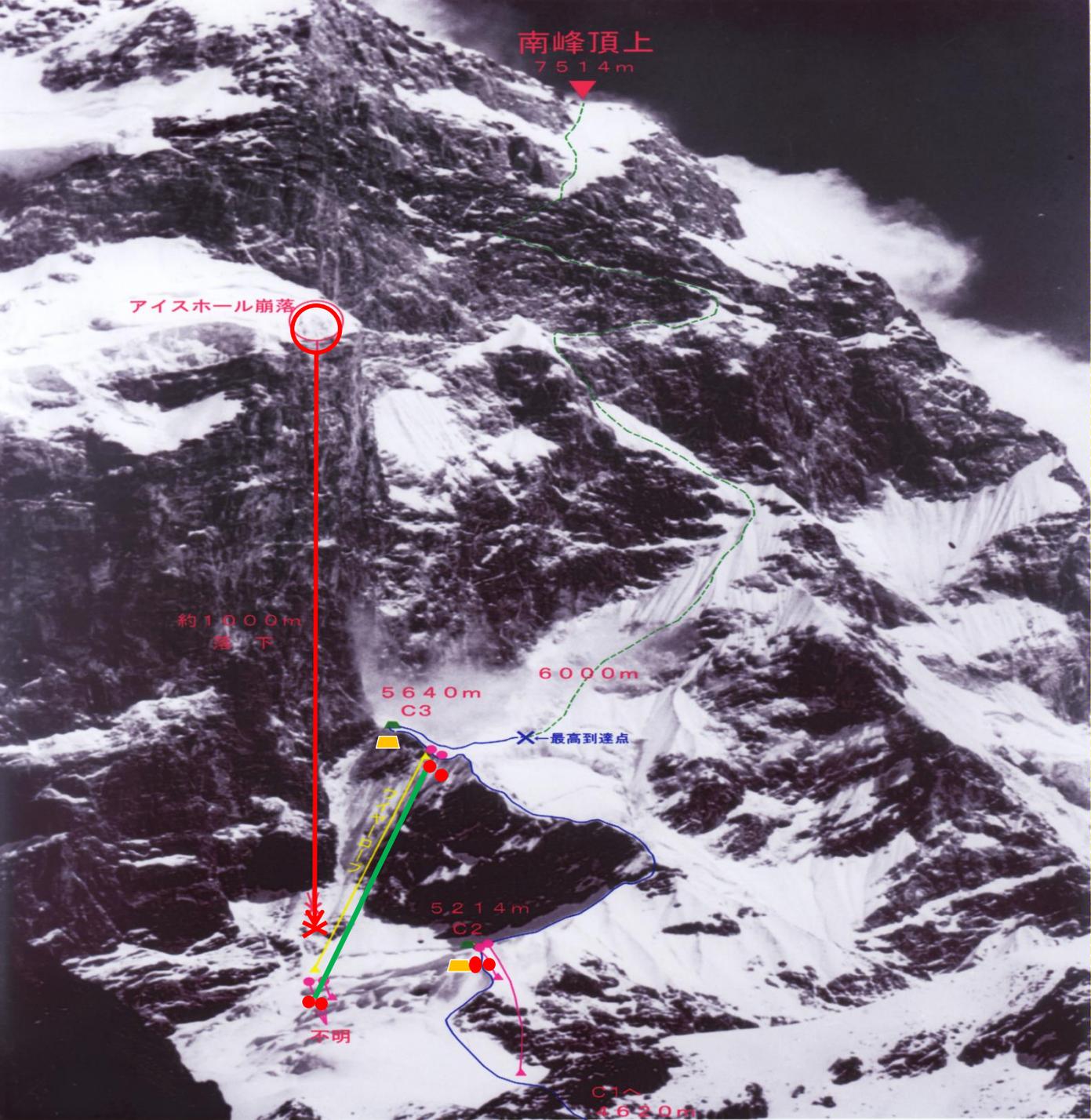


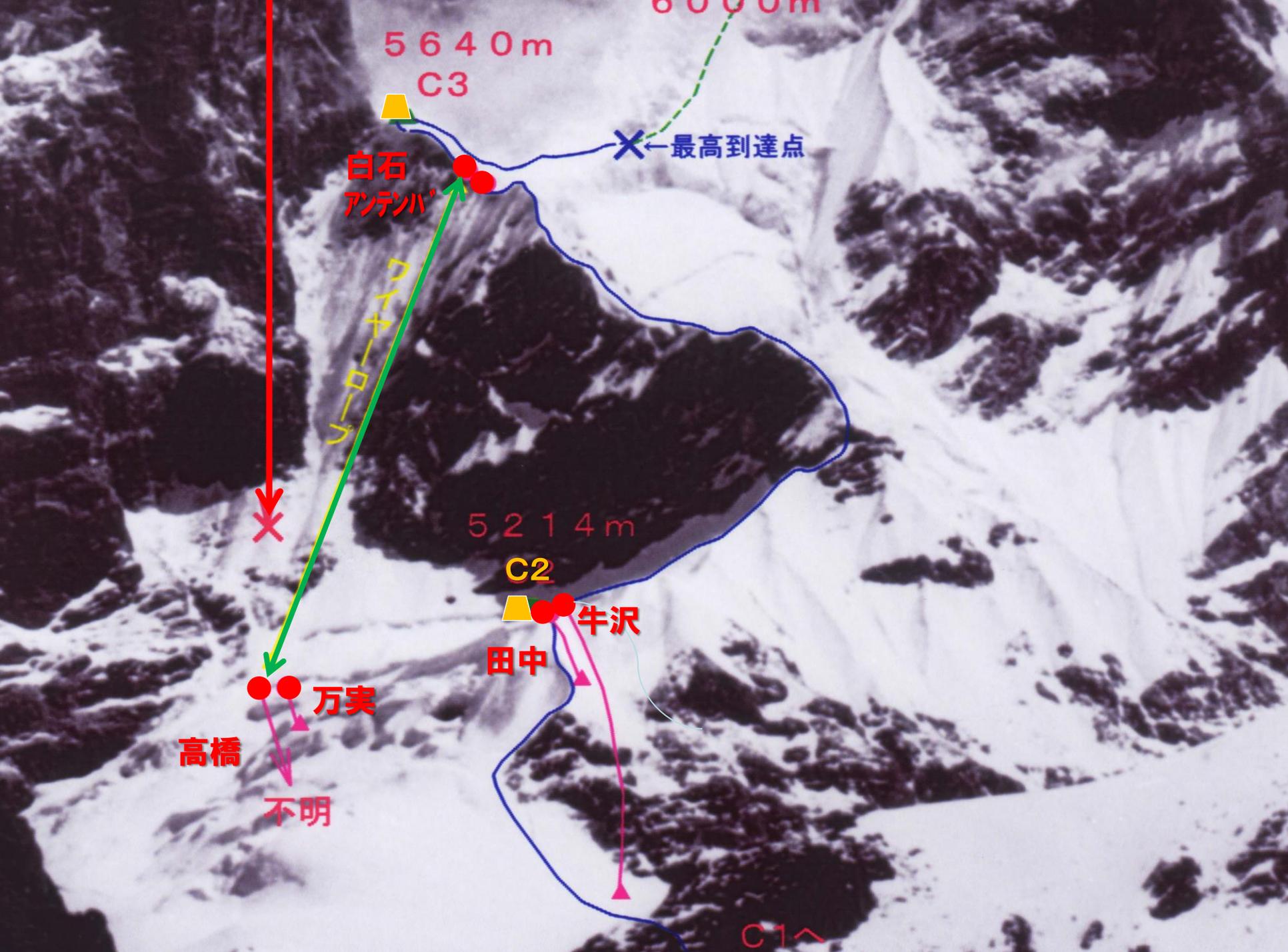
1978年9月

西壁のアイスホールが崩落

3 隊員死亡事故 ↓

原点





高橋隊員の搜索

しかし……
発見できず！

(ポラロイドカメラ写真)



高橋搜索

2隊員の埋葬地 (C2下の台地)



ポーターが腹痛（腸閉塞）でヘリ要請↓飛来
↳遺族訪ネ情報が重なる

腹痛。ポーターと隊長カトマンズへ飛行

再度ヘリを飛ばして↓遺品を回収

隊長Ⅱ一時帰国 ↓ 遺品引渡と説明

ふたたびカトマンズへ戻り、本隊と合流





ツラギの会P29 合同追



合同追悼会（東京八丁堀）

体験を通して

考える

クライシス・マネジメント

と

リスク・マネジメント

クライシス・マネジメント

戦争による国家崩壊への対処から研究が始ったもの

◎ トップリーダーの主たる役割(マネジメント)

◎ ある状態が崩壊し、元に戻らない事象への対処

・ 生 → 死

(生=個人、地域社会、国家、民族、……生物種)

・ 原子力発電 → 炉心のメルトダウン

(原子、分子、個体 …… 物質)

・ 自然事象 (そこに人がいる場合は自然災害)

◎ 対処法

・ 崩壊をくい止めるあらゆる手段を即時に尽す

リスク・マネジメント

日常生活における一般的なマネジメント

- ◎ セカンドリーダー以下の役割(マネジメント)
 - ◎ ある状態が変容・変形しても、復元・再利用可能な場合への対処
 - ・ 一般社会生活のほとんどの部分
 - ◎ 対処法
 - ・ 利害得失を精査し、バランスシートを作成する
 - ・ 優先順位を判断し、適正化へ収斂させる
- つまり ➡ 構想～計画～設計～実施～保全

クライシス・マネジメント リスク・マネジメント の最近実例

2016.11.03 丹沢・水無川・作治小屋

中村純二先生 93歳(東大名誉教授、第3次南極越冬隊員)倒れる

① 【前夜の団欒会】



② 【前夜の団欒会】



③ 【早朝の餅つき】



④ 【つきたてのからみ餅を食べる】



⑤ 【つきたて餅を食べる中村 先生ご夫妻】



⑥ 【食後に中村 先生意識を失う】



⑦ 【即時に救急車要請 →
約30分後到着】



⑧ 【救急車内で検査 →
心電図、血圧、脈拍、呼吸数、等】



⑨ 【救急隊長と交渉 → 異常なしを確認
本人意思の判断で対応を図ることを説得】



⑩ 【意識・判断は正常に戻り、救急隊に
念書を残し、講演会は実施とする】



南極越冬でタロ、ジロらと南極探査をされていた中村先生

E層の黄緑色とF層の赤が重なり、E層のオーロラは白く撮影される

昭和基地の通信塔背後に現れた真つ赤なオーロラ

E層の黄緑色カーテン状射線構造

第3次越冬隊の昭和基地

ほうおう座流星群観測余話 と 第1次～第3次南極物語 中村 純二 (東京大学名誉教授)

2015年4月11日 秦野戸川公園パークセンター講演ダイジェスト

中村純二

講演会風景

2015年11月4日
標題の冊子発行
国立国会図書館蔵書

円内 = 中村

白瀬氷河入口、インステクレパーネ峰(470m)に立つ

【幻の第2次越冬隊】 1958年2月14日、15頭のカラフト犬を鎖でつないだまま宗谷に戻る

1959年1月15日 無人の昭和基地で1年間を生き抜いたタロ(奥)とジロ(手前)

犬ぞり探査 (北村隊員と ジロ、シロ、タロ=先頭)

田英夫
中村純二
西堀栄三郎

1959年5月7～13日、片道40km
人曳り探査 (中村、平山、川口)

白瀬氷河上流の奥氷河岳(270m)
(左=ジロ、中村、タロ=右)



さっそく皇帝ペンギンがお出迎え



2014年12月1日、スペイン、ラ・パルマ島で
58年振り2度目の観測 (佐藤、渡部、中村夫妻)



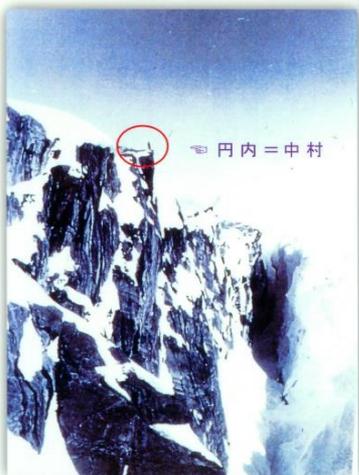
1957年1月24日、海岸に接岸



1956年12月5日、インド洋航行中に巨大流星群発見



2014年の『ほうおう座流星群』



クライシス・マネジメント

意識喪失 → 死の可能性 → 救急車要請
救急隊検査（心電図、血圧、脈拍、呼吸数）

リスク・マネジメント

事実を確認 → 緊急性なし → 最適判断

- ① 救急隊の要望 → 病院へ搬送し再確認
- ② リーダーの意見 → 本人意思の尊重
（予定通り講演会実施）

※ 講演会聴講者に医師、看護師がいる（学会有志）

※ 万一の時は再度救急出動します（救急隊）

ヒマラヤ登山の事前対応

外務省・日本大使館

- ・外交手続きと儀礼程度にとどめる（期待しない）

登山隊の自主対策

（事前準備が不可欠）

- ・緊急連絡方法の確立（軸となる手配者を特定）

体制、無線、出動・待機のサイン、ヘリ着陸マークの確認

- ・緊急輸送手段の確保と医療機関の特定

ヘリコプター、人力、（車）

- ・緊急用資金の確保と預託

生命保険加入一人50万円（掛金一人5万円）遭難対策用

ヘリコプター・フライト費用 \$ 3, 000 を預託（ヒマラヤンジャー ニー）

遭難事故後の報告

- **ネパール政府** → **英文報告書提出(写真付)**
- **日本大使館** → **和文報告書提出**
- **ご遺族** → **遠征途中で隊長一時帰国**
遺品の引渡し、状況説明
保険金返却(一人50万円)
命日前後に訪問(10年間)
- **その他関係者** → **帰国直後に合同追悼会**
手書き報告書配布
- **20年後の報告** → **「青春のヒマラヤに学ぶ」出版**

登山は自己責任 → 現代は社会体制化

＜ 責任には…負える限界がある ＞

負える責任(限界) : **相対的限界**(復元可能)

・ **リスク・マネジメント**

負えない責任(限界) : **絶対的限界**(復元不可能)

・ **死・破壊・喪失・etc**

・ **クライシス・マネジメント**

冒険・探検する時は責任の限界を意識し、
出来る時、できる事の最善を尽くす ← **出来ない事の方が多い**

もし失敗した時
リーダーは

→ **適切な批判には耳を傾ける**

・ **不適切な批判は無視する**

・ **合理的・論理的に検証し次に生かす**

・ **時を得る(心の沈静)**

人生はいつも山登り

- 山頂＝文明＝その時々様々な目標（進化）
- 荷物＝生きる＝ その時々背負っている責任
- 登山＝文化＝自然に逆らって（不条理）目標を目指す
だから当然、危険と背中合わせ！…… 抵抗の美学

- ◆ 楽しみは後からやってくる ← だから最初は苦しい
- ◆ 一つの目標が終わると、次の目標が見える
- ◆ 究極の目標 → 実は 「. . . 何もない」

だれも人生の予知はできず、
苦しくもあり、また楽しくもある

田中文夫 < ◆著作・印刷物 >

- ◆ **青春のヒマラヤに学ぶ** (2001年) 文芸社
- ◆ **頂のあなたに** (2003年) 日本文学館
 - **若き日の山々** (2014年)
 - **老いの道標** (2014年)
 - **登山の総合人間学** (2015年) 国立国会図書館蔵書
 - **登山の生態分類(学)** (2016年) 国立国会図書館蔵書
 - **山の空気 森のざわめき** (2017年) 国立国会図書館蔵書
 - **山と美の終焉** (2017年) 国立国会図書館蔵書
 - **雑学 日本文明物語** (2018年) (6月) 国立国会図書館蔵書



ご静聴
ありがとうございました

2018年7月19日

田 中 文 夫